

平成 31 年 3 月

地域ケア会議からの提案について (平成 30 年度)

テーマ 「認知症高齢者への支援」

課題 1 ～ 多世代に認知症を正しく理解してもらおう ～

- 地域で認知症サポーター養成講座を受講できる機会を増やしていこう ■
- 子育て世代、子ども世代に認知症を正しく理解してもらおう ■

課題 2 ～ 認知症の方や家族の集いの場を増やそう ～

- 地域の力で、本人や家族がいつでも気軽に集まれる場所をつくり
その場所を多くの人に知ってもらおう ■

提 案

- 認知症の方が「身近にいてもあたりまえ」「自然にいられる」地域をつくろう ■
- 認知症サポーター養成講座について、各年齢層に応じた伝え方を工夫しよう ■

- 1 区民は、「友人・知人・隣人」の認知症を我が事と受け止め、自分たちがその支援等においてできることを考え、行動する。
- 2 地域は、認知症の人やその家族を自然に受け入れられるような雰囲気づくりに努め、集まれる場をつくる。
- 3 区や社会福祉協議会は、認知症について具体的に“話せる・伝えられる人”、地域づくりの柱となる人を養成する。

大田区における地域課題の解決にむけた基本的姿勢

- 1 地域の各主体や事業者は、少しでもできることから自主的に取り組む。
- 2 そのため区、社会福祉協議会は、自らの役割を果たすほか、地域の各主体や事業者に対しても働きかけを行うなど、環境づくりに努める。